工業っ子

No. 221
—発行日—
2022. 01. 31
—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部

全国を相手に大健闘

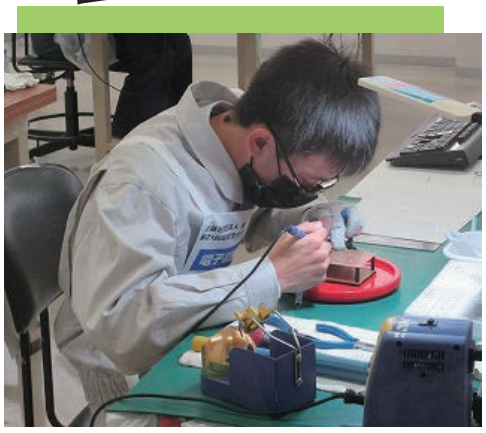
高校生ものづくりコンテスト全国大会

十一月十三、十四日に神奈川県立東部総合職業技術校で行われた高校生ものづくりコンテスト全国大会。長工からは電子回路組立部門と旋盤作業部門に二名の選手が出場しました。

ミスを減らして最高の結果を追求

高校生ものづくりコンテスト全国大会

今回「高校生ものづくりコンテスト全国大会」に出場したのは電子回路組立部門が**濱端翔太さん**（Ｊ３）、旋盤作業部門が**片渕美徳さん**（Ｐ３）。二人に大会に向けての抱負や練習で工夫していることなどを、大会後に会場の雰囲気や感想などをインタビュー。



▲一つひとつの作業を慎重に

☆準優勝☆「1」点差の接戦

電子回路組立部門

《大会前》

電子回路組立部門に出場の**濱端翔太さん**（Ｊ３）は「目標はもちろん『金』をとること。今までがんばってきた成果を出し切ってものづくりを楽しんでくる。練習では基盤の減点をなくすことと、どんな回路設計にも対応できるようにすることに力を入れて取り組んでいる。一〇〇%の自信をもって臨みたい」とこれまで積み重ねてきた練習に付けれた力強い様子話してくれました。また、大会前に食べたいものを聞くと「県大会前にも食べた大好物のいくら丼」とのことでした。

▲張り詰めた空気が満ちた会場

▲会場で記念撮影（回路）

《大会後》

競技会場の雰囲気について濱端さんは「全国大会ということもあり、選手だけでなく先生も含めみんな緊張していた」と語り、濱端さんも緊張したそうです。

結果は松山工業高校が九一点で一位、濱端さんが九〇点で二位。

「悔しい。けど全力で大会に挑み、入賞できたので満足している。そして、県大会や九州大会を上回るほど楽しかった。反省点は課題に書かれていた文章を見落としてしまったこと」と、接戦で二位となった悔しさはありつつも力を尽くした後のすっきりとした様子で感想を話してくれました。

後輩たちへは「部活をするうえで『ものづくりを楽しむこと』を忘れず、常に探求心や遊び心のようなものを持ってものづくりを楽しんでほしいと思う。そして僕が叶えられなかった全国一位をめざしてがんばって」と話してくれました。

成人が持つ責任

成年年齢についての民法が改正され、二〇二二年四月一日から、成年年齢が十八歳に引き下げられます。日本では一四七年間、成年年齢は二十歳でした。そう考えるとこれは大きな変化です。これより先に二〇一五年に公職選挙法が改正され、選挙権を持つのが二十歳から十八歳に引き下げられ、十八歳からの社会参加が始まっていました。

今回の改正での大きな変更点の一つは、十八歳から一人で契約を行えるようになることです。親の同意がなくてもクレジットカードを作成、携帯電話の契約が可能になります。ローンを組んだり、アパートの契約をしたりすることも法律上は可能になります。私が所属する情報技術科三年のクラスメイトに、成人になってできることの中で何に興味があるかアンケートをとったところ、最も多かったのが、クレジットカードが作成できることでした。クレジットカードは便利ですが、結局はお金を使うことになります。親の同意なしで利用できるため気が付いたら膨大な借金を負っていることにもなる可能性があります。成年年齢の引き下げは、十八歳、十九歳の若者の自己決定権を尊重するものであり、その積極的な社会参加を促すものです。しかし、成年年齢の引き下げにより可能になることの他に「有効期間が十年のパスポートの取得」「日本と外国両方の国籍を持っている人の国籍選択」「性同一性障害の人の性別変更の申し立て」などは関心が薄い感じがします。

世界的には成年年齢は十八歳が主流です。十八歳はすでに成年として社会参加が当たり前になっているのです。積極的な社会参加の第一歩は関心を持つこと。そして「できることだけでなくそれに伴う「責任」についてしっかり考えることが求められます。

（山田）

今日の一枚 ～長崎グルメ～

▲「いただきます！」

先日取材に向かった長崎恐竜博物館。隣接する「GAO GAO」という飲食店の目玉商品「恐竜サンド」が今回の一枚。

溢れるほどのお肉と野菜にピリ辛のソースが絡まっていて、それをピタパンという生地でサンドしていました。私が食べたのは中辛。程よい辛さでとても美味でした。恐竜博物館で恐竜サンド。恐竜を身体全体で体感しました。なお、サイドメニューにかまぼこがあるのが野母崎らしさを感じました。

（峰）

ミスが悔しい 旋盤作業部門

《大会前》

旋盤作業部門に出場の**片渕美徳さん**（Ｐ３）は「大会で使用するのと同じ機械がある大村工業高校に何度も通い、練習してきた。自信は学科試験が二〇%、競技試験は五〇%くらいですが、全力で取り組む。目標は全国大会での優勝」と事前インタビューで話してくれました。

大会前に食べたいものを聞くと「九州大会の時も食べた、ＣｏＣｏ壱のカツカレー。これを食べて九州で優勝したし、勝つとカツのわかりやすい願掛けでもあるから」とのことでした。

◀会場で記念撮影（旋盤）

《大会後》

競技会場の雰囲気について片渕さんは「会場は全国大会なのかと疑うくらい緊張感がなかった」とのこと。

惜しくも入賞はなりませんでしたが「自分のレベルを知ることができた。全体的にそこまでレベルが高かったとは思えなかったので、余計にミスしたことが悔しい。最後の大会で結果を残せず心残りはあるが楽しかった」と大会の感想を話してくれました。また、反省点として「課題のことしか考えていなくて、支給された工具に対応することができなかった。そして、二日目に願掛けでもあるＣｏＣｏ壱のカツカレーを食べなかったこと」と悔しそうに話してくれました。そして後輩に向けて「十七年ぶりの県優勝をマグレにしてほしくないので、来年も必ず県大会で勝ってほしい」と、想いを託していました。

▲少しの誤差も許さない

後輩たちには全国を目指してほしい

マイコンカーラリー九州大会

十一月二八日、熊本県立八代工業高等学校で行われたマイコンカー九州大会。長工からはカメラ部門から**泉翔太さん**（Ｐ３）、アドバンス部門から**田久保心さん**（Ｄ３）が出場しました。二人に大会前と大会後にインタビューしました。

大会前、カメラ部門に出場する泉さんは「先輩もいない中で機体を完成させた。自信は『２５６%』。全国の切符を手にしたい」と意気込みを語ってくれました。「２５６」という数字に長工生らしさを感じました。また、アドバンス部門に出場する田久保さんは「県大会で走れなかったところを走れるように、不具合を直すなどの修正に力を入れた」と語り、自信については５０%と遠慮ぎみの回答してくれました。

そうして迎えた九州大会。競技会場では各高校が忙しそうに準備していて、リラックスできる余裕はなかったとのこと。残念ながら結果を残すことはできませんでした。大会を振り返って、泉さんは「本番でうまく調整できず失敗し、悔しかった。でも初めて九州大会まで進むことができ嬉しい。後輩には全国まで行ってほしい」と、田久保さんは「県大会よりも九州大会の方がうまくいったので良かった。来年はもっと向上してほしい」と後輩に想いを託しつつ、感想を語ってくれました。

青春日記

私が長工生ではなかったら、資格試験の勉強を投げ出していたことでしょう。いままでの大変な朝補習はこのときのためにあったのかもしれません。やったぜ。

私が就職する会社では、リモートで研修をおこなうそうです。学校ではリモートで集会などを見たりしましたが、家にいながらリモートで学習をするというのは、なんだか新鮮で時代が進んだ感じがします。ただ、家だとリラックスできるのが裏目にでて集中が途切れないか不安です。眠くならないように体のどこかに洗濯ばさみを挟んでやった方がいいかもしれませんね。

お年玉をもらえるのも今年で最後。とうとう四月からは社会人で、あげる側に。働いて稼がなきゃ正月の出費には耐えられないかも…。

（勝本）

7作品で賞を受賞
全国大会出場を決めた作品もR3高美展

第五十二回県高等学校美術展が十一月十一日から十四日にかけて、長崎県美術館で行われました。本校からも美術部が二十二作品を出展し、七作品が優秀賞を、五作品が優良賞を受賞しました。

新聞部が高等学校美術展の会場に訪れたのは十一月十三日(土)の午後。昨年同様、新型コロナウィルス感染症の影響で入場する際、体温検査等の感染予防対策がとられての開催となりました。会場内は人が少なく、じっくりと鑑賞できましたが、やはり少し寂しい雰囲気がありました。

会場に出展した学校は六十一校、展示された作品は計四七五点。長工美術部からは二十二人が作品を出品しました。

▶「注文間違い?」浦上伊純さん

▶「五人に一人」横尾美優莉さん

「どの作品もすごい」来場者インタビュー

会場に来て作品を観覧していた方に作品の感想をインタビューしました。

―作品一つ一つの完成度が高かった。

―映像作品がよくできていた。アフレコもしっかりとできていた。

―今年も高美展に訪れたが、やっぱりすごかった。

―独創的な作品が多く、細部までのこだわりを感じた。高校生でここまでできるのはすごいと思った。

―立体の作品でバラが詰め込まれているものが印象に残った。近くでよく見てみると花弁が一枚一枚、丁寧に作られていてよくできていると思った。

―いろいろな人の作品を見てみて、学校ごとに描き方や表現の仕方が違い、すごく勉強になった。来年に向けてがんばりたいと思った。

▲「本日のおすすめ」増崎千咲さん

▲「コイ」川添遥さん

さまざまな工夫を凝らして
―優秀賞受賞者に聞く

賞を受賞した生徒のみなさんにインタビューしました。

☆インタビュー内容
①受賞の感想。
②制作する上で工夫したこと。
③絵の見どころ。

横尾美優莉さん(I2)
①とても驚いた。賞を取れてうれしい。
②見やすくなるように文字のサイズや配置に気をつけた。
③人間の下の模様が沢山書いてあるところに、HSPに関連する文字を入れたところ。

川添遥さん(I2)
①高美展で初めて賞を取ることができたのでとてもうれしい。
②筆先が二ミリくらいの筆を使って細かい部分まで書き込んだこと。
③鯉の皮膚の光沢感や水の躍動感を出すのをがんばったので見てほしい。

浦上伊純さん(I2)
①細かい部分があり、大変だった。
②見た人に伝わるようにリアルに描いた。
③海洋汚染という、現在地球で起こっていることをみんなに伝わるようにがんばった。

釜崎蒼大さん(J3)
①最後の高美展で時間が例年よりも少なかったなか、二作品ともに初めての賞を取ることができてよかった。
②絵画は、今までの自分のタッチを活かせるようにしたこと。映像で展開の速さを意識したこと。
③絵画では「釜崎蒼大といえばこのタッチ」と思わせる絵の具の乗せ方をしたこと。映像では、音声を録音して作ったところ。

福川愛美さん(C3)
①最後の高校美術展なので、悔いの残らないようにした。
②いろいろな色を使うところ、ただし色を濃すぎないように作らないこと。
③少女の虚無な瞳と花を持たせているところ。

増崎千咲さん(I3)
①優秀賞をとれてうれしかった。
②全体的にイラストを可愛くして、その中に残酷さや温暖化の脅威を描いた。
③見る角度によってキラキラしているところ。

▶「無」福川愛美さん

校外編 てふ五生!!! パート③
～変わった言葉遣いに「?」～

※言葉遣いには注意しよう!

最優秀賞 分かりやすい発表を心がけて
県科学研究発表大会

十一月六日に平戸文化センターで行われた第二十七回科学研究発表大会。感染予防のため、発表する学校が一校ずつ会場に入っては入れ替わる方式。本校の科学部の発表テーマは「～身近な合成着色料～」制限時間十二分で口頭発表を行い、独創性や論旨などを審査されました。結果は最優秀賞。この研究に取り組むことになったきっかけについてチームリーダーの**佐藤一色さん(C2)**は「食べ物や洗剤にどのくらいの着色料が含まれているか、それがどんな影響を与えるのか気になったから」と話していました。

最優秀賞となった感想について聞くと「実験に多くの時間をかけたので、最優秀賞をとれる自信はあった。しかし、プレゼン中緊張でレーザーポインターが震えてしまったのが反省点。九州大会までにプレゼンの練習をする。今回の実験を元にまだ行っていないほかの実験や、より詳しく結果を求める方法を模索していきたい」と満足そうに話してくれました。

顧問の**大保先生**は「最後までプレゼンをがんばってくれた。わかりやすいプレゼンだった。最後までやり遂げてくれてありがとう」と話してくれました。

沖縄で開催されるはずだった九州大会は沖縄とリモートで二月十二日に行われます。

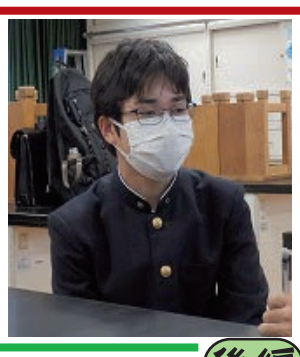
▲高い技術を身につける

シリーズ ものづくり道 ⑨

目指す全国一位

電気通信部では、主に高校生ものづくりコンテスト電子回路組立部門に向けて練習をしています。競技内容は電子回路の製作とプログラミングです。作る回路は小さなものですが、それを作るには想像よりも高い技術が必要です。

一年半練習をしてきましたが、それでも完璧には程遠いです。長工の電気通信部は全国でもトップレベルの活動をしていると思っています。今年は全国二位でしたが来年こそは全てを出し切り、先輩方に全国一位を見せたいです。(坂本)


▶今後の意気込みを語る

挑んだ結果が二度目の最優秀賞という形に
高校放送コンテスト県大会

十一月十三日に行われた九州放送コンテスト県大会。本校放送部はラジオ番組部門で最優秀賞を受賞。作品に携わった**玉置萌花さん(J2)**にインタビュー。感想などを聞いてみました。玉置さんは「前回も同じ部門で最優秀賞を取っていて、がんばろうと思って挑んだ結果が最優秀賞だったのですごく嬉しかったです。内容がすごく濃いものだったので時間内に収めるのが大変だった。多くの人に取材をしたので、音量の調節や雑音の処理が大変だった。九州大会や全国大会などでも上位に入れるように部員全員で力を合わせて作り上げていきたい」と意気込みも含めて話してくれました。

▲元気いっぱいの玉置さん

新聞部員で五・七・五

今回のコーナーでは趣向を変えて、新聞部員で冬・新年を中心に、それぞれの思いを五・七・五で綴ってみました。

▼冬の日々
冬の夜の
雲の隙間に
3等星

夜は更けて
こたつに潜む
睡魔の手

恒例の
町に響きし
除夜の鐘

▼新年を迎えて
年明けて
第一声が
「お年玉!」

▼学校始まる
霜柱踏む
大っ嫌いな
月曜日

▼入試を思い返して
緊張で
背筋が伸びた
面接日

▼そして…
コロナ増え
分散登校
春遠し

どうでしたか。みなさんもいい作品を思いついたらぜひ新聞部へ持ち寄って見てください。

編集後記

三年生が部活に来れる日が少なくなってきて部室が非常にがらんとしています。時には部員が一人しかいないことも。

コロナの感染拡大の影響も相まって、なかなか作業が進みません。誰か手伝ってくれる人はいないかな…。